



# GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2570



版画 田中 一郎  
さざえ堂(減身院)



## Contents

ガバナーメッセージ	2	国際ロータリー年次大会に出席して	18
会員増強及び拡大月間に思う	3	今月の表紙	18
本年度の抱負と方針	4	第一回諮問委員会報告	19
ガバナー補佐	4	第一回地区役員合同会議報告	19
部門委員長	7	8月・9月のスケジュール・文庫通信	20
委員長	11		

国際ロータリー第2570地区  
2009-10年度ガバナー  
加藤 玄静

ガバナー事務所  
〒367-0041 埼玉県本庄市駅南2-2-1 埼玉グランドホテル本庄2F  
TEL:0495-22-8035 FAX:0495-22-8036  
E-mail : info2009@mail.rid2570.gr.jp



2009.8.1



「今を大事に」・・・会員増強は年間を通して  
本年は 1,856名でスタート

ガバナー 加藤 玄静

真下和男ガバナーより引き継ぎ、7月1日より新年度ガバナーに就任致しました。地区協議会で新年度の予算を提示した折、真下恵司地区幹事と会員数を1,900名から1,950名の間と推定しましたが、現実には更に下回る事態となり、非常に厳しい状況であります。

理由は色々あると思いますが、結果は結果として受け止めなければなりません。サンディエゴでの国際協議会本会議でも、RI会長李 東建氏より力強い言葉で「会員増強」の必要性についての講演が行われました。内容は言うまでもなく、現在のロータリーに課せられた最重要課題であるからであります。

RI、日本でもその傾向は顕著であります。対策は次の3つの要素であり、地区・クラブ共「隗より始め」として実践しなければ、ロータリーの存続すら危ないでしょう。

- ・ 新会員の勧誘 (純増1名)———クラブ対策
- ・ 現会員の維持 (80%の維持率)———クラブ対策
- ・ 新クラブの結成 (地区に於いて1クラブの拡大)

私の提案としては、上記の内特に「現会員の維持」を大切にしなければならぬと思います。

クラブの会員減少を防ぐためには、クラブ例会のプログラムを改善・充実し出席率を上げ、地域社会への奉仕活動には積極的に参加し、それを広報する事によって奉仕活動の意義を広く社会に知って頂く事こそ、会員増強に繋がるものと確信致します。

8月は「会員増強月間」であります。本年は年間を通して「会員増強・会員維持」を目標としなければならぬでしょう。既に会員増強セミナーは開催されましたが、クラブ支援を考える時、「クラブ奉仕部門」を中心として「研修委員会」の協力を得ながら、秋に特別研修会の開催を企画させていただきます。

貴方の近くに必ずロータリアンに相応しい方がおります。「ロータリーの未来はあなたの手の手に」とRI会長はテーマを掲げています。是非、本年あなたの手で1人の新入会員を実現して下さい。(これこそ最良の方策ですが。)

# 会員増強及び拡大月間に思う



## クラブ奉仕部門

委員長 栗山 昇 (朝霞 RC)

近年世界的に会員減少が続き、日本のロータリアンの数も1996-97年度13万人をピークに2008年12月末現在97,000名前後になっております。当地区に於いても1994-95年度の田中一郎ガバナー年度2,933名をピークに減少しはじめ真下和男ガバナー年度の5月末現在1,969名までに減少しています。会員減少の原因として、会員の高齢化、病気、死亡、転居、経済不況、後継者不足、地方都市の過疎化等ありますが、一方では、ロータリーに魅力を感じない、ロータリーより他の奉仕団体に行ってしまう等様々な原因が考えられます。この現況を我々は、率直に受け止めて反省すべき点は素直に反省し、年齢男女問わず一人でも多くの善良な成人を発掘し、仲間として受け入れていく心掛けが不可欠であると考えられます。

それでは、会員増強の特効薬はあるのでしょうか。恐らくその様な特効薬など存在しないであろうとロータリアン全員が口を揃えておっしゃるでしょう。私もその一人であります。しかし、妙薬は、あると思っております。その妙薬とは、「ロータリアン一人ひとりがロータリーの原点を知り、ロータリーの魅力と出会えることにより自分の生き様の中にその魅力に感動すること」であると考えております。そのヒントは、先人達の言葉から知ることができます。

私が尊敬しております朝霞RCの創立会員で、現在95才(現役)であります油木恒久会員のお書きになった小冊子「奉仕の心」の中に、今から約34年程前に、ロータリーの神様とまで言われておりました東京北RCの神守源一郎氏は、「たった4人ではじまったロータリーが全世界に広がり発展していった秘密はロータリーの規則と組織の厳しさにあったと思われてなりません。先ず出席の厳しさ、時間厳守、職業分類による一業一人の原則、到れり尽せりのロータリー情報、役職の一年交替等に見られる厳しさです。最近団体発展の為の宿命でありましようか、

やたらに会員増強に狂奔する余り、ロータリー本来の奉仕は、如何にあるべきかというような議論より会員をもっと増やすためには、どの規則をどう弛めるべきか、等という議論のみが先走り、これ等の厳しさの特徴が全てに亘って乱れてきたのは幾ら時代に即応するためとは言え、ロータリーはこれで良いのかと思わざるを得ません。」との文言が紹介されており、油木会員は私見として、「世の中が安易に流れやすく、物質中心に動いているとき会員は、ロータリーの存在を、一般的な単なる奉仕ではなく、奉仕、友愛の実現と併せて自己研鑽、修養の場として認識したからではないでしょうか。」と述べられております。

又、日本が生んだお二人のRI会長の一人向笠広次氏は、「例外的なへそ曲がりの人間嫌いを除き、普通の人間は友人を欲します。いや友人が無くては生きられません。ロータリーは、我々が安心して付き合える友人、その人と一緒に居ると楽しくなり、その人を友人とすることに誇りを感じずような友人を与えてくれます。他方、人間は朱に交わって朱くなります。いい人達との交わりの中で、我々は益々心を磨かれます。『鍛冶屋をしながら鍛冶屋になる』ようにロータリアンとして奉仕をしながら、我々は益々立派なロータリアンに成長します。」と述べており、油木会員は、向笠氏の言わんとすることを次のように言っておられます。「ロータリーの驚異的発展の要因は、ロータリアンの心即ちロータリアン同士又自己と接触する職業人を通じて限りなく拡がっていく、人間として最も望ましい『心の向上』を指摘しているのです、これが失われた時、もはやロータリーは、存在しないと言っているのではないのでしょうか」。

本年度は、量よりロータリーとは何かの質を考える時期にきているのではないのでしょうか。何故なら量は、質の結果として自然と生まれてくるように思われるからです。

# 本年度の抱負と方針

## ガバナー補佐



西澤 孝夫



西川 武重郎



佐藤 信男



武田 哲



細井 保雄

### 第1グループガバナー補佐

西澤 孝夫 (越生毛呂 RC)



今年度RI会長のテーマは「ロータリーの未来は、あなたの手の中に」です。ロータリーの奉仕を振り返るとき「私たちの未来は争いのない世界に平和をもたらし、末永く確かなものにする事」だとRI会長は宣言しています。

また加藤ガバナーは、地区のテーマを「今を大事に」としています。

世の中で少しでも恵まれているロータリアンとして、今を大事に「今に向きあって精一杯生きること」と説いています。

私はガバナー補佐として、加藤ガバナーのこの方針に沿って第1グループをまとめ、そして浸透させていきたいと思っています。

私のガバナー補佐としての考え方として

- ①各クラブへの積極的な情報提供をすること。地区行事やその他の情報をなるべく会長、幹事またはクラブの事務局あてにメール等により伝えたい。グループの会長・幹事さんとは特に連絡を密にしながら、クラブ運営の妨げにならない程度にクラブ訪問をしてクラブでの問題点や情報交換をして、少しでも活性化できるようにまた、クラブ運営がスムーズにいくように手助けをしていきたいと思っています。
- ②地区とクラブとの情報交換を密にすること。当地区の各部門委員長さんを始め、役員さんとも情報提供して積極的に「地区とクラブの活性化」につながるよう努めたいと思っています。会長幹事会にはできるだけ研修の講師を招いて、勉強会を実施していきたいと思っています。
- ③インターシティーミーティング (IM) の開催をすること。IMは、来年3月20日 (土) を予定し、グループすべてのロータリアンが参加できるように、プログラムを会長幹事さんを中心に考えていきたいと思っています。

## 第2グループガバナー補佐 西川 武重郎 (志木 RC)



### 「心豊かな社会を造ろう」

ガバナー事務所から月信の原稿依頼が来たちょうどその日、テレビで秋葉原で起きた無差別殺人事件から一年が経ったことを伝えていました。そしてその後も意味もなく人の命を奪ってしまう悲惨な事件が後を絶ちません。なぜこのようなことが次々に起こるのでしょうか。私達人間は豊かさを求めて必死に生きてきました。そして物の豊かさはある程度手に入れることができましたが、心の豊かさを求めることをどこかに置き忘れてきたのではないのでしょうか。そして、その結果が人の命を平気で奪ってしまう様な殺伐とした社会を造ってしまったように思います。

このような社会にあって、私達ロータリアンは何を為すべきかを考えてみたいと思います。私達ロータリアンは「ロータリーの心」である人のために奉仕することの大切さを知っています。自分さえ良ければという考え方のもとに権利だけを主張し義務を果たそうとしない、その様な社会にあって、「ロータリーの心」である人のために奉仕することが、人の心を豊かにし、人を幸せに導く方法なのだということを、もっと多くの人に伝えていく努力が必要なのではないのでしょうか。そのために私達ロータリアンは加藤ガバナーを中心にロータリーの心を一人でも多くの人に伝え、明るい豊かな社会を造っていききたいものです。私も微力ながらそのために努力することをお誓いし、抱負とさせていただきます。

## 第3グループガバナー補佐 佐藤 信男 (狭山 RC)



加藤年度の第3グループガバナー補佐に選任されました佐藤でございます。

2009-10年度RI会長ジョン・ケニー氏は『ロータリーの未来はあなたの手の中に』というテーマを私達に発信されました。彼は素晴らしい過去を現在から未来へと繋ぐ事の大切さをメッセージとして与えてくれたことは、大変素晴らしいことと受け止めました。このメッセージを理解し実践する事が、私たちの責務とも考えます。

正に切れることのない強固な鎖で未来へとリレーすることが最も大切な事と確信しました。

今年度(2009-10)第2570地区の加藤ガバナーはRI会長のメッセージを受けその上、ガバナーの座右の銘ともいう『今を大事に』を中心に地区のテーマとされました。今を大事にというテーマはRIのメッセージを実践する上で最も的を得ている言葉とも考えられます。過去を未来に繋げるのは『今』しかありません。

私はガバナーの意を受け、グループのみなさんに理解して頂く事が最大の責務と位置付け、与えられた一年を楽しみながら満喫したいと思います。RI会長やガバナーの考えをクラブリーダーに伝達するだけでなく、クラブの考えもガバナーやRI会長に届くよう両者の架け橋になりたい。それが私の目標です。目標を達成するには相互の信頼関係が不可欠です。

真の信頼関係を構築するには、可能な限り多くのリーダーの方々との交わりがどうしても必要です。積極的に多くのロータリアンと語り合い、互いの意見交換が必要です。

ロータリーの原点でもある四つのテストを、本物にするためにも真剣に討論し合いたい。また加藤ガバナーを全力でサポートしたい。

今を大事にして…結果としてお互いの素晴らしいロータリーライフを構築したい。

その夢を互いに持ち続けようではありませんか。

## 第4グループガバナー補佐

武田 哲 (深谷東 RC)



加藤玄静ガバナー年度のガバナー補佐を務めることが決まりましたから、補佐の研修を何回もして頂きました。104年の歴史の中でロータリーが培ったクラブ支援のノウハウは素晴らしいもので、これを究めれば自身の企業運営にもきっと役に立つのではないかと思いました。それは当然のこと、ロータリーのリーダーは、その多くの方々は成功した事業、専門職の方々であり、その知恵が集積されたものであるからだと思います。

ロータリーは今危機にあると思います。日本でもロータリーの発展期では、ロータリーを自己研鑽の場と考え、ロータリーを理解しようとしていたと思います。会員はロータリーに敬意を払い価値を認めそこから何か得ようとしていたと思います。今は如何でしょうか。少し違って来たようにも見えます。

今、会員の減少によるロータリーの弱体化を危惧します。ロータリーは寄付だけの団体では有りませんが、会費が例会を維持するだけで終わってしまい、地域社会、国際社会がロータリーを評価できなくなると、ロータリーの魅力が如何となりましょうか。

例会でロータリーの話を読んでも、退屈でしょうがない。そんな話をよく聞きますが、何か興味深く感動的で、なおかつ自身の職業上、また家庭生活のためにもなる、またロータリーもよく分かる、そんな情報を提供できれば素晴らしいな、そんな例会にどうすればできるか、グループの会長・幹事の皆様と共に考えて行ければと思っております。

加藤ガバナーは沢山の知恵をお持ちの方であります。頂ける知恵を自分の手の中に取り込み、その手でロータリーの未来を拓いて行くクラブであって頂けるよう、ガバナー方針をよく理解し、クラブ支援を第一とする方針で、一年間努力して行きたいと思しますので宜しくお願い致します。

## 第5グループガバナー補佐

細井 保雄 (行田さくら RC)



本年度のRI会長ジョン・ケニー氏のテーマは「ロータリーの未来はあなたの手の中に」RI会長の強調事項、RIの長期計画も示されました。加藤ガバナーのテーマは「今を大事に」であります。地区の活動目標、重点プログラムも掲げられました。

私は各クラブ様の資源を有効活用し、自主性を尊重しながらこれらのことを実行したいと思っております。また、各クラブ様のお役に立ちたいと思っております。

ここ数年、多くのクラブがCLP（クラブ活性化プラン）を取り入れております。それに基づいて作成された「効果的なロータリークラブとなる為の活動計画の指標」がありますが、これはクラブ会長とガバナー補佐の対処する職務の一つです。これらを一緒に勉強したいと思っております。

また、グループ内のクラブの皆様へIMをお世話になるわけですが、11月23日（月、勤労感謝の日）に開催致します。加藤ガバナーの重点プログラムでもあります、～今を大事に、「ウォッチ・ザ・地域社会」を推進し、地域に貢献しよう～ということがありますが、第5グループは主題「世界遺産登録について」グループ内4クラブに「我が町、まち遺産」と題し、まち自慢をしていただきたいと考えております。

私は、担当する各クラブ様とより親睦を深め「面白くて為になる」1年間にしたいと思っております。皆様のご指導、ご協力お願い申し上げます。

# 本年度の抱負と方針

## 部門委員長



栗山 昇

新井 弥男

金子 圭典

茂木 正

野口 健吉

小池 貞作

大澤 衛

### クラブ奉仕部門

委員長 栗山 昇 (朝霞 RC)



#### 「充実した例会・活性化された奉仕活動」

絶対的に実現不可能であると考えられていた職業上の交友と家族的、友愛的交友とを合わせて可能にする親睦団体であるクラブを作ったらどうかという発想を原点とし、職業人が、このクラブにおいて、友愛の精神で相互扶助をしていこうという画期的なものであった。このことが、ロータリーの原点であるといわれております。この原点を実現するためには、職業人としてクラブの仲間との親睦を図る事により職業を通じて相互扶助を実現することが不可欠であると考えております。そこで、これを可能にするための手段、方法としては、「充実した例会・活性化されたクラブ活動」の実現なくしてはなりません。その根源は、体系化された組織の充実も重要ですが、それにも勝とも劣らずロータリアン一人ひとりの存在が鍵を握っていることでしょう。

又、会員が減少傾向にある現況を我々は、率直に受け止めて、年齢男女問わず1人でも多くの善良な成人を発掘し、仲間として受け入れていく心掛けが不可欠であります。

その為には我々一人ひとりが職業人として、倫理高揚に励み、ロータリアンとして地域社会に誇れる活動をすることが求められます。言い換えれば、ロータリアンの一人ひとりの行動、活動こそが動くロータリーの広告塔であります。

第2570地区のロータリアンの皆さん！！

加藤ガバナーは、ことあるごとに、「地区は国際ロータリーのために存在しているのではありません。クラブ支援のために存在しているのです。」と申しております。私も、全くその通りであると考えております。本年度は、クラブと共に考え、クラブ支援を積極的に行っていく所存です。

## 職業奉仕部門

委員長 新井 弥男 (所沢 RC)



“忘れられた職業奉仕から、なくてはならない職業奉仕へ”を目指し、本年度ジョン・ケニー RI会長も、7つの優先項目の5番目に大きく掲げておりますし、また、加藤ガバナーの重点プログラムの一つ“今を大事に、ロータリー独自の職業奉仕への取り組みを強調する”との大意を受けて、一年間できるだけ事業を展開して行きたいと思っております。特に、一般的には抽象的で難しいセクションであり、また、現下の経済情勢において論ずるには厳しい環境だと思われるからこそ、敢えて、真正面から真剣に取り組んでいきたいと感じているところです。

まず、そのためには我々委員相互が、職業奉仕の重要性を認識し、そして、その歴史と理念を研修し、理解を深め実践するための「意識の同一化」を図ることが大事ではないかと考えております。

そして、職業奉仕とはロータリアンが自らの職業を通じて、人々に奉仕し高い道德水準を実践することを奨励することにあるとの認識の下、本家においては、アーサー・F・シェルドン、また、ハーバート・テラーの存在、日本にあっては、石田梅岩、二宮尊徳、近江商人、渋沢栄一等々の、倫理と経営の両立性、そして社会貢献（奉仕）の必要性を訴求していく所存です。

特に本年度は、渡辺、平岡両委員長をはじめ、地区委員の皆様とともに、御互いに啓発しあいながら、チームワークを大事にし、高い理想を堅持しながらもクラブメンバーと乖離しない、分かり易く親しみ易い職業奉仕へと努力し、理解を求めていきたいと思っております。

何はともあれ、こういう時代だからこそ、まず会員基盤としての「正業」をきちんと見つめ直し、その上で「ロータリーの基本は職業奉仕にある」そして「職業奉仕の研修と実践はロータリーの金看板」という言葉を胸に刻みながら、明るく楽しく元気良く、全うしていきたいと存じますので、地区のメンバー皆様の温かいご理解ご協力を衷心よりお願い致しまして、本年度の抱負と方針とさせていただきます。

## 社会奉仕プロジェクト部門

委員長 金子 圭典 (鶴ヶ島 RC)



加藤ガバナーの社会奉仕プロジェクト部門に関する方針と事業計画についての構成は、時代や社会環境の状況に応じて4委員会に分別されている。

(1)健康・福祉、(2)高校生社会体験活動、(3)世界遺産登録推進、(4)環境緑化、であり、各委員会は正副委員長を主軸として既に活動も勢力的に推進されている。

本年の社会奉仕プロジェクト部門は「理論よりもまず実践」に心がけ実際に履行し行為・動作にあらわし出すこと、いわゆる目標を高く掲げ実行することを部門の信念として着実に運営出来ることに、私は期待している。

ロータリークラブの活動を充実させるには社会的な背景が必然的であり、そこに地域住民は元より多数の県民、市民と共に共存共栄することの出来る活動や事業を実施する事が肝要なことは周知の事実である。

しかしロータリークラブと行政等の年度の相違で足並みがそろわず負担となり、ロータリーの活動が阻害され支障をきたすこともある。そこで加藤年度事業の前倒しを余儀なくされる運びとなる。

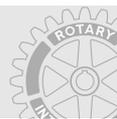
奨学生制度もそうであるように高校生の社会体験活動委員会も夏休み前までに、企業や事業主の受け入れ承諾の名簿を県教育局へ提出しなければならない。

又、本年5月30日に実施された環境緑化委員会の活動も鶴ヶ島、川越、日高の隣接する日光街道杉並木植樹を地元保存会に併せてロータリークラブが、花粉の少ない杉苗を寄贈したことで、読売、朝日、毎日、産経の各新聞が大きく保存会に対応したロータリークラブの実績を報じてくれた。

本年度の目標の達成に更に一層邁進していきますので皆様のご協力をお願いします。

## 国際奉仕部門

委員長 茂木 正 (本庄 RC)



### 『地域と結びついた国際奉仕に』

今年度の方針の一つに【国際奉仕とその活動によって青年たちの国際視野を広げ、日本人としての自覚を深め、地域と国の発展を目指し、国威発揚に役だてる事】とさせていただきます。

私達ロータリークラブの活動は、援助をすれば良いと言った、施しの感覚があるとさえ思います。もう一步踏み込んで自分達も汗を流すことを見据えての活動にしたいと考えています。その上でその活動を通して培ったものを、青年たちに伝えてゆきたいと願うものです。

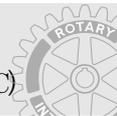
ロータリークラブの活動は、特に国際奉仕活動は地域にはなかなか浸透しづらいところがありますが、その活動を地域に伝えることが必要であると考えています。地域皆様の協力によっての書き損じはがきの収益金という浄財がどのように使われているか、日豪青年相互訪問といったプログラムを青年たちにどう届けてゆくか、そうしたことは全て地域と世界を結ぶものであると思います。

地域のお金を世界に、家庭の青年たちを世界に向けてゆくことがこの地域の発展に繋がります。もはや日本だけ、日本人だけといった限定された環境で暮らすことはできません。国際社会という厳しい現実を見つめ、青年たちにもこれからの厳しい時代を生き抜いていってもらうために、もっと良い世界や環境を次の時代に残すために、私たちの活動を続けてゆきたいと願っています。

どうか会員皆様の更なるご理解とご支援を切にお願い申し上げます。

## 新世代部門

委員長 野口 健吉 (東松山むさし RC)



今年度のRI会長ジョン・ケニー氏は「ロータリーの未来は、あなたの手の中に」と提唱されております。

新世代部門委員会としては、未来を担う若者達に下記の委員会を担当し側面から支援していきたいと考えております。

### 【アクト委員会】

・インターアクトクラブでは14～18才までの青少年、高校生達がロータリーの提唱する奉仕プロジェクトです。楽しく思い出に残る活動ができるよう支援したいと思います。

又、スポンサークラブとの連絡を密にし交流の場を持って頂くよう働きかける。

・ローターアクトクラブでは地域の為に奉仕し友情や親睦を深め活発な活動が出来るよう支援し地区のロータリアンとの交流が少ないように思うのでローターアクト地区大会等に積極的にロータリアンの参加を促し交流を深めたい。

又、各ローターアクトクラブの活動計画を提出して頂きロータリアンの参加を働きかける。

### 【青少年交換委員会】

異なる国の文化と生活習慣の体験は相互理解を生み、国際理解と平和の推進に役立つことは誰しも思いますが、受け入れとなると非常に困難であるのが現状であります。

前年度から複数のクラブが共同で受け入れる態勢が出来つつあるので見守って行きたい。

### 【ライラ委員会】

ライラ委員会については、ここ数年の実績を広く各ロータリークラブにピーアールし、支援をお願いしたい。指導者養成プログラムの充実をはかり、ボランティアの企画運営等の研修を多く取り入れた研修会にしたい。

今年度も新世代の為に奉仕支援活動に努力致しますので、ご協力をお願い致します。

## ロータリー財団部門

委員長 小池 貞作 (寄居 RC)



今年度財団部門委員長を担当いたします、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年度の方針として、財団セミナー1回、地区協議会、財団月間、会長幹事会、卓話等を通して財団プログラムをご理解頂き、さらにプログラムに参加して頂くことにより一層理解を深めてほしいと願います。R財団は、創立から92年目を迎えロータリーの代表的なプログラムを実践しております。即ち**教育的プログラム**では、国際親善奨学金、世界平和フェロー、GSE・**人道的補助金プログラム**では地区補助金・マッチング・グラントほか・ポリオ・プラスプログラム等に年間（2007-08）2億8百万ドルの基金を拠出いたしました。基金の全ては、会員皆様の継続的な善意の寄付と投資収益で賄われております。

2009-10年度寄附は3年後の地区の財団活動を決る重要な目標です。

**寄付種別で0クラブを無くそう！**

【総額200ドル】

- ・年次寄付（個人100ドル+協力金30ドル）（130ドル）
- ・使途指定寄付（チャレンジ寄付）（50ドル）
- ・恒久寄付（20ドル）

今年度予定される主なプログラムは

①国際親善奨学生4名推薦。（3年後の目標5名）②地区補助金2.4万ドル予算化（3万\$目標）③世界平和フェローの推薦。④ロータリーカードの加入増進（現在127件）⑤GSEプログラムの準備。⑥ポリオのチャレンジ寄付金達成。（使途指定）⑦2008-09年度財団の財務報告（2月クラブ送付）素晴らしいプログラムも皆様の善意に満ちた継続的な支援がなければ奉仕の理想は実現しません。

「ロータリーの未来はあなたの手の中に」あります。自信と誇りをもって前進しましょう。

## 米山奨学部門

委員長 大澤 衛 (和光 RC)



「何ごとも人々にしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ」 米山 梅吉

前部門委員長より続紹の榮にあずかりました和光クラブ所属の大澤衛と申します。今後ともよろしくお願いいたします。

米山奨学部門は、我が国ロータリーの中でも大変重要な役割を担っております。特に、第2570地区は世話クラブ、カウンセラー制度、地区米山部門委員会、学友会として活潑な活動を行っております。これも偏にクラブ会長、クラブ米山委員長さん始めカウンセラーの皆様方のご協力の賜と存じます。この制度はご存じのように、ロータリアンの温かい寄付財源で、外国から勉学のために来日した優秀な学生を奨学することにより、将来にわたり、世界平和と国際理解に貢献する人材を育成し日本と各国の架け橋として各々活躍していただくことを希望する、他には見られない物心両面からの支援する素晴らしい制度だと思えます。

今年度、当2570地区は前々年度実績3500万円達成により、世話学生も3人増え、24人になりました。これも皆様方のご協力ご支援のお陰と心より感謝申し上げます。

ここで、寄付の推進で具体的なお願いでございますが、普通寄付はクラブの予算に組み入れて、前期・後期の2回をいただいておりますが、（現状は年間で6000円が23クラブ、4000円が26クラブ、その他が6クラブ）でございます。また、特別寄付には税金の控除対象（法人も対象）になりますのでご検討いただきますれば幸いと存じます。

そこで、本年度も地区寄付目標額を3500万円とし、米山奨学事業をご理解いただき一人でも多くの米山奨学生を育成して行きたいと思っております。各クラブの委員長さん、カウンセラーさんを中心に、ロータリアンの熱い思いとともに尚、一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

# 本年度の抱負と方針

## 委員長



### 地区研修委員会

委員長 浅田 進 (本庄南 RC)

加藤ガバナーは、「地区重点プログラム」に「今を大事に、セミナー等を開催してクラブ（会員）の向上を支援する」とし、効果ある研修が我が地区の更なる活性化の原動力との認識の下、従来は研修リーダーと研修リーダー補佐の担当でしたが、新たに委員会として組成されました。

2009年度版「クラブ会長要覧」には、2007年規定審議会の決定ならびに「要覧」出版後のRI理事会決定に基づく改訂事項として、「クラブ会長の責務」の項に「ク

ラブが包括的な研修プログラムを実施するよう確認し、クラブが包括的な研修計画を立てられるようクラブ研修リーダーを任命（任意）する」と補遺されております。RI挙げての課題と理解すべきでしょう。これ以外にも「CLP」「包括的な研修計画」「指導者育成プログラム」「長期計画の立案」「効果的なクラブ」等々にも研修の重要性が強調されております。

これらを受けて、委員会では石川研修リーダーを中心に、成果が上がる研修のあり方について、鋭意検討しております。今後、研修方法について「クラブ研修リーダー」とも意見交換を重ねながら研究し、研修を通じて実効ある「クラブ支援」が出来ればと願っております。

### 組織・CLP 対応委員会

委員長 栗山 昇 (朝霞 RC)

加藤玄静ガバナーの考えに沿って「クラブ奉仕部門は、クラブ支援である」を念頭におきながら、クラブからの要望、意見等には積極的に耳を傾け、クラブ組織・会員組織・CLP対応についての疑問、卓話要請があれば積極的に対処していきたい。

また、真下ガバナー年度におけるCLPのアンケートの結果を踏まえ、クラブの例会、親睦、プログラム等クラ

ブ奉仕、管理、運営等について各クラブの実態を把握するために、クラブ奉仕、クラブ管理運営を中身としたアンケートを実施し、他クラブの情報を月信等を通じて、紹介していきたい。例えば、例会の運営・進行について（例会変更等）、親睦会の内容、プログラムの状況、炉辺会合（情報集会）の開催、新会員への情報提供、メークアップ会員への対応、CLP採用でクラブ運営、奉仕活動に変化があったか等についてお聞きしたいと考えております。

### 会員増強委員会

委員長 山口 茂 (熊谷南 RC)

「ロータリーの未来はあなたの手の手に」RI方針に沿って「会員基盤を増やす勧誘と会員維持」

2009-10年度 国際ロータリージョン・ケニー会長は7つの優先項目を掲げました。その7つの中で会員増強について下記のように方針を発表しております。

「質的にも量的にも会員組織を世界的に拡充する」は重要な優先事項です。これはロータリーが達成すべき目標のすべてが、会員をよりどころとしているからです。資格ある新会員をもたらす事は私達一人ひとりの責務です。

しかしながらこの責務を果たしているロータリアンはわずかです。ほかの人々にクラブへの入会を勧め、会員を増やす事が出来るのは、ロータリアンしかいないのです。

RI方針を基に2570地区 加藤玄静ガバナー方針による

クラブ奉仕部門の会員増強委員会として方針並びに活動計画を立てて、各クラブに支援出来るように活動する事とします。

その為にも、会員増強セミナーでは各クラブよりの参加者に、グループ討議の研修を考えております。

#### 方針

- 1名純増！
- 会員維持率80%の確保！
- 会員30名確保へのチャレンジ！
- 女性会員の勧誘！

#### 活動計画

- 研修セミナーの開催
  - 第1回 6月6日（埼玉グランドホテル本庄）
  - 第2回 下半期予定
- 出前研修会の開催
- グループ単位での意見交換会を開催
- 活動状況の照会と紹介

## 広報・記録委員会

委員長 井花 富男 (新狭山 RC)

ロータリーの奉仕活動は、実に素晴らしいもので、大変な社会的貢献をしていますが、ロータリーの公共的イメージはいまひとつ良いものではありません。

当委員会では、それを拭うべく過去2年間、RIの広報補助金を申請、ロータリー全体の広報番組を制作、地区内CATV網で放映、また各クラブの奉仕活動の对外広報をサポートしてきました。

本年度はその集大成として、各クラブが展開している、

地域に密着した奉仕活動を、いかにしたらこれまで以上に、効果的に对外広報できるかに絞っていきます。年2回開催予定(7月、2月頃)のセミナーは、7月は各クラブの对外アピールしたい社会奉仕活動等を題材に作成したプレスリリースをもとに情報交換、地域社会に広報、発信できる素材、手法などを探り、効果的なプレスリリース作成のヒントを掴んでいただく場に、2月は上半期の对外広報の事例発表等で、上半期をフィードバック、下半期の对外広報対策を探る場にと予定しています。

奉仕活動の情報を地道、的確に提供し続けることがロータリーの公共的イメージアップへの一助かと思えます。

## 職業奉仕委員会

委員長 渡邊 栄一 (行田 RC)

ジョン・ケニーRI会長と加藤玄静ガバナーの方針を踏まえ、地区内クラブと会員に対し、職業奉仕の重要性をきちんと伝えるために、会員に地区主催の職業奉仕セミナー、関連する講演会、ディスカッション等への参加を積極的に奨励します。

職奉の実践により、会員の事業所の倫理基準が高揚し、経営者としての会員の品性資本の充実に寄与できて、繁栄することを理解して貰います。そのために次のような

事業を行います。

1. 先ず委員自身が職業奉仕の重要性を認識し、職奉理念の理解と実践を深め、その共有化を図ります。  
(委員会日標)
2. クラブリーダーとの関係強化のために、ディスカッションを実施します。(職奉ゼミ)
3. クラブの職奉プロジェクトへの理解と協力をします。  
(情報交換)
4. クラブ又はグループとの交流活動を実施します。  
(出前活動)

## 職業倫理委員会

委員長 平岡 達也 (入間 RC)

ロータリーが生まれた20世紀初頭のシカゴは、金儲けのためなら手段を選ばない人達が横行し職業倫理の低下が際立っていたという。そうした中で当初互惠と親睦からスタートしたロータリーはそれに飽きたらず社会奉仕活動に進出し、そしてその根底に倫理観を培うなかで今日まで発展してきた。

ロータリー運動とは本来倫理運動であり、職業を単なる金儲けの手段としか考えないということはロータリーには馴染まない。しかしながら昨今のロータリアンが関

連する企業不祥事の多発等は、ロータリーの倫理観の崩壊の危険性をはらんでいる。

そこで本年度加藤ガバナーはロータリー独自の職業奉仕への取り組みを強調し、職業奉仕委員会の他に職業倫理委員会を設けた。会員の中には職業奉仕は分かりづらい、その上職業倫理とは思われる方も多いかと思われる。

そこで今年度はロータリーの基本理念の一つである「四つのテスト」「ロータリアンの職業宣言」そしてそれぞれの事業所の「家訓・社訓」に的をしぼり、その理解・普及を進め職業倫理の高揚に務めたい。

## 健康・福祉委員会

委員長 花家 孝之 (日高 RC)

少子高齢化問題が叫ばれてから久しくなります。日本も人口減少が始まりました。幸せな人生は健康から始まります。そこで各クラブに在籍の医療・福祉・介護等に関連の会員を軸としてグループを立ち上げて頂き、以下の諸活動を期待致します。又ロータリークラブとして何が可能か、何を出来るのかも検討して下さい。

〔健康〕

○健康についての卓話・講演会

健康・生活習慣病・新型インフルエンザ等

○健康相談

○体験実習 健康体操・救急応急処置・AED

○メタボ検診をうける。(市町村行事)

〔福祉〕

○福祉・介護についての卓話・講演会

○施設見学・体験実習 移動例会・試食会等

○福祉・介護の行事に参加、職員を激励

クリスマス会・誕生日会・お祭り等

○地域のニーズを調査し、参加・援助等を考える。

授産所・養護学校等

〔アイバンク運動に協力・クラブとしても参加〕

○献眼登録・献眼・補助金援助

## 高校生社会体験活動委員会

委員長 山崎 嘉正 (川越 RC)

「県立高校における体験活動の推進」

次世代を担う青少年たちは、何時の時代でも国・社会の宝です。その青少年たちが、このところ至るところで悪質で凶悪な事件を引起し、世間を震撼させております。

激変する社会的・経済的な環境に連動して、次世代を担う青少年たちに、多くの人々が不安を感じ悩んでいますが、反面、適切な取り組みにも決め手を欠く現状であります。

以上クラブ内で可能なものから実行して下さい。上半期・下半期とで2回位お願いします。

そこで、埼玉県教育局において、県立高校の生徒たちの生きる力・社会力の育成のための施策の一環として「高校生の社会力を育てる総合推進事業」を平成18年度の緊急課題として取組まれることになりました。

当2570地区といたしましては、上田知事の要請に基づき、また「青少年健全育成」の観点から、鈴木ガバナ一年度より当該事業に協力しております。

本年も多くのクラブより社会体験の受入協力のご意向を頂いておりますが、ご理解とご協力に対し、心から感謝を申し上げます。

## 世界遺産登録推進委員会

委員長 鈴木 秀憲 (吹上 RC)

埼玉県は首都圏の一角をなし都心からも近く便利で、位置的に他の道府県に比べて恵まれています。気候も暑すぎず寒すぎず、自然災害は少ない。このように恵まれているが故に危機意識は薄く、団結力や自治意識は育たない。従って地元意識は薄く郷土愛も育たないと感じています。

このような状況下で、埼玉県名発祥の地「さきたま古墳群」を世界遺産登録する為の努力は郷土愛・地元意識を醸成し、自治意識や団結力を育む事に大変有効である

と考えます。

勿論世界遺産に登録される事によって、さきたま=埼玉の地名度は上がり、訪れる人は増え、単にさきたま古墳群周辺のみならず近隣地域、更に埼玉全域で経済効果を期待出来ると思います。

そして意識の高揚や経済効果によって地域全体の活性化を図れる点が、この運動(奉仕活動)の効果であり必要性であると考えます。

地区内各クラブも夫々の地域の文化財等を中心にこの様な運動を展開し、その結果として地域が活性化すれば、ロータリーが行う社会奉仕事業として大変素晴らしい事であると考えます。

## 環境・緑化委員会

委員長 木藤 文雄 (坂戸 RC)

加藤ガバナは本年度のテーマを「今を大事に」を掲げ、ロータリーは地域にどんな貢献ができるかの課題を示された。環境・緑化委員会としては悩める自然環境にロータリーとしては何が出来るか考えました。

地球規模での自然破壊・温暖化が叫ばれ幾久しく、国際規模で温暖化阻止を考え実践しているがその勢いは止まろうとしていない。大方の人はより快適で豊かな生活を望んでおり、それに逆行することは容易ではありません。

それでも未来の人々のために、私たち一人ひとりが温暖化防止の意識を持ち、何かを行わなければなりません。ロータリーとしては地域の人々、団体と協力して環境保全活動と啓蒙運動を行います。

1. 秩父「ロータリーの森」の保全・管理の推進事業をロータリー家族と共に行う。
2. 日高市・鶴ヶ島市間の「日光街道杉並木」の植樹と保全を地域住民と共に行う。
3. 地区内に清流を呼びもどすため、河川浄化の啓蒙運動を行う。
4. 環境・緑化運動に関するキャンペーンを行う。

## 日豪青年相互訪問委員会

委員長 大舘 廣 (所沢中央 RC)

当プログラムは今年度34回目、35年目(2004.9.11テロ時に中止)を迎えました。この間、約1,000名にも上る青年の交流により、両国の相互理解に努めてまいりました。プログラムの特徴は

①ホームステイを通して両国の文化の違いや自然を実体

験できる

- ②日本の歴史・文化等の素晴らしさがあらためて確認できる
- ③ Team Japanとして団員相互の交流が図れる等々です。プログラムの参加を機に「子供が成長した」「個人的に日豪相互間の家族交流を継続している」等の報告が多数寄せられております。

この記事をお読みいただいている頃には各クラブにプ

プログラムのご案内をお送りしてあります。当委員会では  
団員・ホストファミリーの皆様を新たな世界へのご案内

## 世界社会奉仕委員会

委員長 平岡 徳大 (所沢西 RC)

本年度は、ジョン・ケニー会長のもと“ロータリーの  
未来はあなたの手の中に”のテーマに基づいて事業を行  
うわけですが、何せ世間は広くその対象が多岐に  
渡り、又時間も予算も限られておりますので的を絞って  
二つの事業を行う事を考えております。

一つ目は、具体的にはネパールの学校支援であります。  
ネパールには22,500の小学校があるそうですが、政府か  
ら予算が出るのは一校に付き年1万ルーピーだけだそうで

## アクト委員会

委員長 森田 光一 (東松山むさし RC)

私達ロータリアンは、若者、つまり「新世代」は社会  
生活に積極的な関心を持ち、専門的知識開発の機会に恵  
まれるべきであるという信念を持っています。「新世代  
部門」アクト委員会の使命は、「新世代」に将来への準  
備をさせるため、健康、人間の価値、教育、自己開発等  
を支援するプロジェクトをおこなうことにあります。

現在、インターアクト・クラブ、ローターアクト・ク  
ラブ共に会員の減少が大きな課題です。こうした状況を

## 青少年交換委員会

委員長 中川 正明 (東松山 RC)

青少年交換プログラムはご存知のごとく高校生を一年  
間交互に交換し、その滞在の間お互いの異文化を肌で  
体験し理解を深めることにより、国際理解の向上・世界  
平和の推進に資するという事を目的としています。

今年度の青少年交換委員会の活動についておおまかな  
目標を申し上げますと、昨年度は8名の派遣学生を選  
抜・教育し今年度において各国へ派遣することができま  
したが、その過程において大変苦勞をいたしましたので、  
今年度は派遣学生数を縮小し4-5名を目標にしていま  
す。それでも来日学生は7名ですので関係ロータリーク  
ラブの皆様には大変ご苦勞をおかけしますが、国際理解  
とロータリー精神の下によくご協力のほど、お願い  
申し上げます。我々の仕事は2つあると考えています。

1つは派遣学生の教育であります。年間を通じて青少  
年交換の目標について、あるいは日本を代表する学生と  
なる教育・オリエンテーションを行うことでもあります。

もう1つは来日学生とロータリークラブ・ロータリア  
ンとのつながりを作ることで、これは来日学生を地域に

できると確信しておりますので、この機会に是非ご検討  
いただければと思います。

す。学年制は小学5年、中等中学2年、高校3年だそう  
です。又国民総生産は一人あたり年に200USドルで(北  
朝鮮の次の)最貧国だそうです。その結果ですが識字  
率男70%、女30%だそうです。この向上を目指すことは、  
以前から国連が推進している運動とも合致するわけであ  
ります。

二つ目は、アフガン(カブール州)の地雷の被害者に  
対する支援であります。これは現在も進行中であるだけ  
に深刻な問題です。如何に効率よくやらなくてはならな  
いか、多くの問題を含んでおります。いずれにしても当  
2570地区の皆様の大なる御支援を期待しております。

打開し、活動を活性化させるためには、インターアク  
ト・クラブに対しては提唱ロータリー・クラブが、学校、  
顧問教師との連携を図ることが必要です。また、ロータ  
ーアクト・クラブについては、提唱ロータリー・クラブ  
とのより強い連携協力・指導体制の構築が必要です。

本年度、アクト委員会は地区内インターアクト12クラ  
ブ、ローターアクト3クラブと各提唱ロータリー・クラ  
ブの連携協力を支援し指導をおこないます。2009~10年  
度はロータリー活動の「新世代」の基本に戻り、アクト  
委員会の活動をおこないます。

溶けこませる大切な仕事であると考えています。いづれ  
もロータリアンとくにカウンセラー・ホストファミリー  
の皆様のご協力がなければできません、関係クラブの会  
員の皆様ともどもこの青少年交換プログラムを楽しみな  
がら国際奉仕・青少年育成につくしていただきたいと思  
います。

今年度の具体的な活動予定を上半期とくに7-10月の  
活動を中心に説明します。

7・11(土) 新年度委員・ROTEX 打ち合わせ会

6・上旬-7/17(金) 来年度派遣候補生募集

7・26(日) 派遣候補生一次選考試験

婦人会館

8・1(土) 来日学生・カウンセラー、第一ホストファミ  
リー会議(危機管理・セクハラ・保険など)

東松山中央活動センター

8・上旬-8・中旬 来日学生出迎え(7名)

8・29(土) 来日学生オリエンテーション

東松山中央活動センター

9・26(土) 来年度派遣候補生二次選考

一次選考後に引き受けクラブを依頼

10・13(火) 派遣候補生決定・通知の郵送

- 10・24(土) 帰国学生報告会・来年度派遣候補生のオリエンテーション開講式・来日学生オリエンテーション
- 11・14(土) 派遣候補生・来日学生オリエンテーション
- 12・12(土) 派遣候補生・来日学生クリスマスパーティー
- 1・9(土) - 1・11(月) ウィンターセミナー  
(予定)
- 2・中旬 派遣生・来日学生オリエンテーション
- 3・27(土) - 28(日) スプリングセミナー
- 4・中旬 地区大会出席
- 5・中旬 派遣学生・来日学生オリエンテーション
- 6・中旬 派遣学生閉講式・来日学生帰国報告会

このような過程で年間の予定が組まれています。更にこの中に組み込まれていませんが12月より派遣地区（外国）の交渉に入り来年2月にはほぼ派遣国が決定されねばなりません。その後は派遣地区とスポンサークラブとの間に入っていろいろの確認書の取り交わしの仲介を行います。最近では危機管理・セクハラの問題が特に強く取り上げられています。年間を通じて休むことのない活動ですが、閉講式や帰国報告会でそれまで教育した学生の成長した姿を見ることが我々の楽しみです。

すべてのロータリークラブの皆様にはホストクラブとなってこの楽しみを分かち合っていたいただきたいと思います。

## ライラ委員会

委員長 藤島 弘士 (越生毛呂 RC)

RYLAとは、「Rotary Youth Leadership Awards」の略です。ロータリー青少年指導者養成プログラムの頭文字です。このプログラムは14～30歳までの若い人々のためのプログラムであり、国際ロータリーが1971年に公式に採用致しました。ロータリアンにとっては、このライラは指導者を育て貴重な専門知識や技能を分かち合い、世代間の溝を埋めるのに貢献できる機会を提供するものです。

当2570地区では2006-07年の鈴木ガバナー年度で12～3年振りに再開され、第一回目は東松山の松山女子高で「世界を知ろう、君達と一緒に」をテーマとしてディス

カッションを行いました。委員会としてはライラを通じてロータリーの哲学や価値観を新世代に判り易く伝え理解してもらえれば幸いです。ライラの運動を通じて新世代にこの事を伝える事が我々の使命かと存じます。

第二回目の石川年度では、「君達と一緒に日本を知ろう」第二部として曹洞宗、宮寺住職を迎え「日本の心」の講演と坐禅を皆んなと行いました。

第三回の真下年度では、「美しい心をもって深く生きる」をテーマにワークショップを行ってまいりました。以上3年間の経過を記しましたが、ライラ委員会としての方針は一貫しております。それは「将来の青年に夢を託そう」この一言を胸にライラ委員会全員が前進する所存であります。

## R財団推進・補助金委員会

委員長 柴崎 典一 (深谷 RC)

まったく経験の無い私が、R財団推進・補助金委員長に指名され、おおいに戸惑っておりますが、前任の細井委員長からのご助言を受けながら、一生懸命務めさせていただきます。

R財団への今年の寄付目標額は、会員1人当たり200ドルです。内訳は年次寄付が130\$、恒久寄付が20\$、使途指定寄付（ポリオプラス）が50\$となります。各クラブの目標が首尾よく達成されますよう、ロータリアン各位のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

今年の地区補助金は、前年同様に総額24,000\$とな

ります。1,000\$以上2,000\$を限度にご利用頂きますが、補助金は実施事業費の50%以内との条件があるため、同額もしくは同額以上のクラブ事業費が必要となります。利用クラブ数は、12～13クラブを予定します。プログラムを立案の上、9月25日（金）までに当委員会あてにお申し込み下さい。

地区補助金の承認基本条件、

- ①人道性がある。（困っている人達を助ける。）
- ②プログラムを広報する。（地域メディア・新聞・市の広報誌を利用する。）
- ③物品の提供である。（金銭の支援でないこと。）
- ④プログラムにロータリアンが直接係わること。



## ロータリー財団奨学学友委員会 委員長 松本 光司 (坂戸さつき RC)

ロータリー財団奨学学友委員会の活動について

国際ロータリーのロータリー財団は1983年アメリカカリノイ州の法令の下に非営利財団法人となり、2007年規定審議会で、国際ロータリー理事会から財団の使命が「ロータリアンが、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること」と成り、地区レベル、クラブレベル、においてロータリー財団へより一層の参加をし、ロータリー財団を自分たちの財団と自覚していただくために、ロータリー財団奨学委員会は財団の使命を担い、財団プログラムの教育的プログラムの中の国際親善奨学金プログラムを利用して活動を致します。

国際親善奨学生は：主に1学年度（9ヵ月間）国際親善奨学生を募集致して居ります、他国の教育機関で勉学させることによって、相異なる国民間の理解と友好関係の増進に寄与することにあります。

9月より2010～11年度に派遣致します候補生が6月6

日に合格者ガイダンスを受け、年5回のオリエンテーションが始まります、候補生はオリエンテーション期間中、地区開催の事業へ参加、11月のロータリー財団月間では各クラブに於いての卓話など、留学までに10回程のスピーチを求められております。

2011～12年度派遣奨学生について：10月に成りますと奨学候補生の募集要項の検討に入ります、近隣55大学に募集ポスターを配布致しまして募集と成ります。

学友会との協力：奨学学友委員会のプログラムを行うにあたり、選考試験時の選考担当、オリエンテーション担当、学友会二ユース担当、等、ロータリー財団学友会のご協力を頂き、年数回、学友会の懇談会を開催致しまして学友会への支援も行っております。

世界平和フェローについて：平和フェローの誕生が待たれるところですが、地区からの推薦人数に制限もなく、何名でも世界平和フェローとして地区推薦が出来るように成りました、2570地区最初の世界平和フェローの推薦をお待ちいたします。

## GSE 委員会 委員長 吉田 靖男 (志木 RC)

研究グループ交換プログラムについて

ロータリー財団の研究グループ交換（GSE）は、事業や専門職務経験の浅い25歳から40歳までの人々に、文化と職業に関するまたとない交流の機会を与えるものです。このプログラムは、異なる国のチームが組み合わせられ、相互訪問する補助金が提供されます。4週間から6週間にわたり、チームメンバーは滞在国の文化や制度を体験し自分と同じ職業が海外でどのように実践されているかを観察しながら、意見交換をしたり、個人的な関係や専門職業人としての関係を築いたりします。

通常4週間の交換滞在中に、参加者は、丸5日間の職

業訪問、15回から20回のクラブでのプレゼンテーション、10回から15回の公式訪問と社交行事に参加し、地区大会に2日から3日間参加します。また1日当たり3時間から4時間の文化研修や現地ツアーに参加するほか、1日当たり3時間から4時間の自由時間をホストファミリーとともに自由に過ごします。

当2570地区は3年に一度このプログラムを実行しています。今度の相手国はオーストラリアに決定しております。しかしながら実行は2010-11年の西川年度になりますので、加藤年度はその準備年度になります。派遣団員の募集、受け入れスケジュールの作成等の仕事があります。会員各位のご協力を頂かなければならない事が沢山あるかと思ひます。よろしくお願い致します。

## 米山奨学推進委員会 委員長 鍛冶田 宙一 (坂戸 RC)

長い不況のトンネルの中から、抜け出せない日本経済の環境の元、会員の減少があげられますが、日本のロータリーが力を入れている国際事業が三つありますが、我々の推進する米山記念奨学会は、日本最大の組織の国際奨学事業であります。

これ等は日本に留学する外国人を対象とする、日本のロータリー独自の奨学制度でありまして、この米山奨学事業の特徴は、世話クラブ、カウンセラー制度によって、

奨学生一人一人が日本での留學生活において、精神的な支えを得、ロータリー活動に密着する事が出来る点であります。優秀な学生を支援し、将来日本と世界を結ぶ「架橋」となって社会で活躍して、世界平和を築いて頂く事が願ひであります。

厳しい選考基準をクリアし、選出された優秀な学生が、本年度より女性17名・男性7名の合計24名の奨学生です。

本年度も地区の目標額の3,500万円の達成を目指して、機会ある事にご理解あるご協力をお願いをしつつ、その責務を果たすつもりですので、何卒皆様方のお力を宜しくお願いいたします。

## 米山奨学学友委員会

委員長 井上 豊 (秩父 RC)

今年度の米山記念奨学部門での活動は、多くのロータリアンに米山記念奨学会について関心を持ち理解して頂き、支援、協力をお願いすることにあります。その為には、昨年以上にロータリアンと米山奨学生並びに学友生との交流を深めることが大切だと思います。

今年度、第2570地区では、24名の奨学生が各クラブに配属され、すでに例会等を通じて交流がされています。

今年の奨学生も多くの難関を突破して米山奨学生になっています。奨学生から現在の自国の話や日本の文化・

風習などの違いや、学校を卒業してからの夢などを聞いていただく等、是非奨学生との交流を深めて頂きたいと思います。

そうすることによって、先人のロータリアンたちが創った、このすばらしい米山事業の理解を深めて頂くことが出来るのではと思います。

今年度第2570地区米山部門は、大澤 衛 部門委員長のもと活動を始めました。この一年の活動が、昨年度に負けない内容になるよう米山地区委員一丸になりがんばりますので、ロータリアン各位のご協力ご支援のほどを切にお願いいたします。

## 財務委員会

委員長 竹間 瑛 (東松山 RC)

本年度地区財務委員長の竹間です。前年度地区幹事が次年度の財務委員長となる決まりにより、私とその任にあたる事になりました。よろしくお願ひいたします。

残念なことに、当地区の会員数は2000名をきり、1950余名が現状です。会員の高齢化、会員の減少はここ十年来の傾向です。2000名を越すラインに復活することは非常に難しいと考えられます。

会員数が、地区会計の収入に直結しているため、特にこの数年間、地区財政が逼迫しており、まさに綱渡りの状態が続いております。

この状態から脱却するために、改革元年として、真下直前ガバナーは様々な試みをして参りました。その効果は確実に実を結びつつあります。

本年度も、その方針を引き継ぎ、財政改革に取り組んで参りたいと思います。

本年度の財務委員会として、加藤ガバナー、真下地区幹事と手を携えて、予算案の検討、中間決算（1月中）、年度末の決算（7月中）等、少なくとも3回の会議を持ちたいと思います。

また、要請に応じて委員会として、適切なアドバイスをしつつ、真下地区幹事と共に健全なる地区会計運営に努力していきたいです。

皆様のご協力をお願い申し上げます。

## ブライダル委員会

委員長 磯田 力彦 (新所沢 RC)

当ブライダル委員会は発足以来3年目を迎えました。今年度では加藤ガバナー直属の委員会として強いバックアップを頂きながら進めてゆきます。過去2年間、委員及びコーディネーターの努力により4組のカップルが誕生しましたが、この経験と成果を生かし活動を続けます。

今年度の方針及び抱負

①毎月第3土曜（パーティー月は除く）の午後、北坂戸オルモにて相談コーナーを実施します。

登録者の方々にお出で頂いてコーディネーターが相談をお受けします。

②年度1年間に3回のブライダルパーティーを開催いたします。（北坂戸オルモにて開催）

スケジュール 2009年9月12日(土)、12月5日(土)、2010年5月15日(土)

③地区内ロータリー会員推薦による登録者が対象です。現在140名程の登録者がおります。

登録を希望する方は随時受付しますので、委員会あるいはガバナー事務所へご連絡下さい。

いずれにしましても1年間に1組でも多くのカップル誕生を目指して努力したいと思いますし、我々委員会の活動によってロータリー周囲の若い人達が活気づくことを期待しております。

## On To モントリオール

委員長 茂木 正 (本庄 RC)

◎カナダ モントリオール

◎2010年6月20日（日）～23日（水）

詳細なスケジュールは、決定次第ご案内致します。

多数のご参加をお願い致します。



# 「国際ロータリー一年次大会に出席して」

ガバナーエレクト 西川 武重郎 (志木 RC)



イギリスのバーミンガムで行われた国際年次大会に出席してまいりました。

バーミンガムは大英帝国風の石の建物と古いレンガの建物がミックスされ、そのすばらしい景観を新しい高層ビルが破壊してしまっている様な不思議な、そして活気のある町でした。

世界中からその町に集まってきた多くのロータリアンの姿を見ていると、これだけのロータリアンが、其々の地で奉仕をするとともに、世界の飢餓や貧困をなくし、より良い世界を築こうと奉仕をしていることが世界の平和に大きく貢献しているのだということを実感して参りました。

バーミンガムは産業革命の時代に発展したイギリス第2の都市ですが、人間はその産業革命の時代より便利さと豊かさを求めて努力してきました。そして便利さと物の豊かさは、ある程度手に入れることが出来ましたが、心の豊かさを求める努力を忘れてしまいました。そしてその結果、誰でもよいから人を殺したかったという様な理不尽な事件や、家庭の崩壊から子供達が非行に走るという様な殺伐とした社会を造ってしまった様に思えるのです。

そのような社会であるからこそ、「ロータリーの心」人良かれという奉仕の心を持って、社会を浄化していく努力が必要だと痛感しました。そして世界大会に集まった世界中のロータリアンが、手を携えて「ロータリーの心」を世界中に広めて行く努力をすることにより、必ず平和な世界を作ることが出来るのだと確信して国際大会より帰ってまいりました。

## 今月の表紙



### 版画制作

田中 一郎 (坂戸 RC)

(大正12年3月18日生)

### 経歴

旧制台北高等学校文科卒業

東京大学文学部史学科卒業

埼玉県立松山高等学校教諭

国立奈良文化財研究所開設委員 (奈文研)

坂戸中央公民館長

入間地区公民館連絡協議会長

埼玉県公民館連合会副会長 (埼玉公連)

全国公民館振興市町村長連盟事務局長

全国公民館連合会事務局長

坂戸市史編纂室長

埼玉県文化財保護調査委員

埼玉県埋蔵文化財事業団理事

国際ロータリー第2570地区ガバナー

地域文化財振興により文部大臣表彰受賞

文化財保護功勞により勲五等瑞宝章受賞

成身院 (じょうしんいん) 真言宗豊山派、平等山。埼玉県本庄市児玉町小平

天明3年(1783)浅間山噴火の死者を追弔のため百体観音堂(通称、さざえ堂・高さ約20m)を建立。さざえ堂とは、外観は二階建てであるが内部は、三層式の建物で一階に秩父三十四観音、二階に坂東三十三観音、三階に西国三十三観音あわせて百観音を祀っている。参拝者は内部を一巡りすることで百観音を参拝したのと同じご利益を得ることができる。入口から出口まで螺旋状に登るところから、構造が巻貝のさざえに似ているので「さざえ堂」と呼ばれている。

# 2009-10年度第一回諮問委員会開催される

ガバナー 加藤 玄静

真下和男、竹間 暎年度も大きな成果を築き上げ、本年度に引き継いで頂きました。感謝申し上げます。

新年度7月1～2日は、東京でガバナー会（元ガバナー合同）、ロータリーの友研修会、R財団

セミナーが開催されました都合、7月4日（土）本庄市で行われた「地区役員合同会議」の午前中に第一回諮問委員会が開かれました。

当日はパストガバナー（諮問委員）4名が病欠出席されましたが、諮問事項、報告事項は次の通りでした。

- 【諮問事項】（1）地区表彰規定 地区慶弔規定 地区諸費用支給内規  
（2）北朝鮮拉致被害者家族に対する支援金協力について  
（3）諸委員会委員選出について
- 【報告事項】（1）ガバナーノミニー指名委員会より  
（2）危機管理委員会より  
（3）第38回ロータリー研究会開催について  
（4）一般財団法人ロータリー日本財団設立経過について  
（5）R財団「GSE」事業について

## 第一回地区役員合同会議開催



地区幹事 真下 恵司

加藤年度初の事業であります地区役員合同会議が7月4日（土）埼玉グランドホテル本庄にて開催されました。154人の地区役員の皆様にご参加を頂きました。

佐藤地区副幹事の司会により別記プログラムにより実施いたしました。

本年度は会員数の減少が予測され厳しい状況になりそうですので経費の節約をお願い致しました。

### ＝プログラム＝

- 13：30～15：00 第一部【全体会議】  
点鐘  
国歌並びロータリーソング斉唱  
パストガバナー並び地区役員紹介  
地区役員・委員に委嘱状の交付  
前年度ガバナー、地区幹事に記念品贈呈  
挨拶  
グループ方針発表
- 15：20～16：30 第二部【全体会議】  
ロータリーソング斉唱  
部門方針並び重点プログラム発表  
地区大会開催について  
地区からのお知らせ  
点鐘
- 16：45～18：00 第三部【懇親会】



8月のスケジュール	
1	土
2	日 インターアクト年次大会：狭山ヶ丘高校
3	月
4	火 公式訪問－日高RC
5	水 公式訪問－熊谷東RC
6	木
7	金
8	土
9	日
10	月 公式訪問－川越中央RC（夜間）
11	火
12	水
13	木
14	金
15	土 プライダル相談会
16	日
17	月
18	火 公式訪問－朝霞RC
19	水 公式訪問－飯能RC
20	木
21	金
22	土 社会奉仕プロジェクト部門セミナー：国立女性教育会館
23	日
24	月
25	火 公式訪問－入間南RC
26	水 公式訪問－鶴ヶ島RC
27	木
28	金 公式訪問－和光RC
29	土
30	日 米山記念奨学会第1回評議員会
31	月

ガハナー事務所  
夏季休暇

9月のスケジュール	
1	火 公式訪問－所沢RC／新所沢RC（夜間）
2	水 公式訪問－志木RC
3	木 公式訪問－皆野・長瀬RC
4	金
5	土 R財団第1回オリエンテーション
6	日
7	月
8	火 公式訪問－深谷、岡部、深谷ノースRC合同
9	水 公式訪問－寄居RC
10	木
11	金 公式訪問－狭山RC
12	土 R財団部門セミナー／ブライダルパーティー
13	日
14	月 公式訪問－朝霞キャロットRC（夜間）
15	火 公式訪問－越生毛呂RC
16	水 公式訪問－川越西RC
17	木 公式訪問－新座RC
18	金 公式訪問－川越小江戸RC
19	土
20	日
21	月 敬老の日
22	火 国民の休日
23	水 秋分の日
24	木
25	金 公式訪問－熊谷RC
26	土
27	日 新世代部門セミナー
28	月
29	火 公式訪問－川本RC（夜間）
30	水
31	木

## 文 庫 通 信 (262号)

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、2万余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

### ロータリー情報

- ◎「ロータリーの基本精神としての『サービス理念』と『職業奉仕』」 菅生浩三 2009 4p (D.2660 月信)
  - ◎「これからのロータリー」 渡辺好政 2009 6p (D.2690 地区大会記念誌)
  - ◎「約束を守ろう！ポリオ撲滅」 岩渕 均 2009 8p (D.2770 月信)
  - ◎「一九一一年のロータリーのToleration（寛容）とPhilosophy（哲学）」  
坂本俊雄 2009 1p (D.2750 新会員研修セミナー研修資料)
  - ◎「ロータリーの奉仕・Serviceをめぐる一〇年間の大議論 一九二三年の二三一三四号決議」  
坂本俊雄 2009 2p (D.2750 新会員研修セミナー研修資料)
  - ◎「貧困への挑戦 識字プロジェクト」 竹腰兼壽 2009 1p (D.2630 月信)
  - ◎「ロータリーにおける社会奉仕について」 勝野露観 2009 10p (D.2640 月信)
  - ◎「ロータリーの職業倫理訓逐条解説(10)～(12)」 青木伸翁 2009 3p (D.2770 月信)
- [上記申込先：ロータリー文庫（コピー／PDF）]

### 【ロータリー文庫】

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階  
 TEL：03-3433-6456 FAX：03-3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>  
 ■開館 午前10時～午後5時 ■休館 土・日・祝祭日